

★ 第20回白子川源流まつり

新型コロナウイルス感染症拡大の収束の兆しが見えない今年は、源流部でのまつりの開催は見合わせ、「2020白子川源流ネットまつり(仮称)」を予定しています。



● 学習支援 “白子川はかせになろう” って

2001年7月、大泉南小の先生からの要請を受け、4年生の総合学習の授業で「私たちの白子川」というテーマで出前授業をしたのが始まり。以来毎年「授業」と「体験」を通して、子どもたちが「白子川はかせになる」ためのはじめての一步を支援してきた。

子どもたちは、白子川という名の川があることを、川には多くの生き物が息づいていることを、川の源流は湧水から成り立っていることを知り、川の水は夏は冷たく冬は暖かいことを感じ、川面の風は気持ちよく縄文時代ここで暮していた人も同じ風を感じたのかなど思いを馳せる。そして、川には臭いもあり川が抱える問題に気付く。時には、「メダカは空を飛ぶか」という議論で盛り上がり、先生役の水辺の会のメンバーは子どもたちからの質問攻めにシンドロドロに……。

子どもたちの様々な学びの集大成は「源流まつり」で発表され、19年間回を重ねてきました。

◆ 白子川源流の定例活動

毎月第4日 曜の午後1時30分から、どなたでも参加できますが、今後の新型コロナウイルス感染状況により、中止とする場合があります。

編集後記

例年になく長い梅雨が明けると途端に猛暑がやってきました。7月は全国各地で豪雨災害がありました。線状降水帯の発生により3日から14日にかけて年間降水量の半分が降った地域もあったようです。豪雨対策はますます喫緊の課題です。

前号で白子川と東京オリンピックの意外な関係の記事を書きましたが、新型コロナウイルスの感染確認者数の増加傾向に歯止めがかからない状況では1年遅れの開催などおぼつかないでしょう。こんな時こそ市民は税金の使い道を厳しく追及し、必要な所に必要な税金を投入するように声を上げ続けたいものです。(小川)

6月～9月

活動記録

- 6/6(土) “源流の森”研究会(メール会議)
- 21(日) WE LOVE 白子川の会
- 27(土) 身近な水環境の全国一斉調査(新型コロナで日程変更)
- 28(日) 定例活動(ウキヤガラ部分刈り、ヘデラ・コウホネ移植)
- 6/末 新型コロナにより定期総会は開かず、書類による議案審議
- 7/上旬 区の白子川除草の改善実現(練馬区との連携)
- 12(日) “源流の森”研究会(メール会議)
- 18-25 活動団体パネル展(勤労福祉会館)
- 19(日) WE LOVE 白子川の会
- 26(日) 定例活動は中止
- 8/10(祝) “源流の森”研究会(メール会議)
- 16(日) WE LOVE 白子川の会
- 23(日) 定例活動(有志で実施)
- 25-26 大泉南小学校 白子川体験 ●
- 31(月) 大泉南小学校 白子川授業 ●
- 9/13(日) 青少年育成大泉西部地区委員会の白子川訪問(小5-6年生40名)
- “源流の森”研究会(メール会議)
- 20(日) WE LOVE 白子川の会
- 27(日) 定例活動(有志で実施)

これからの活動予定

- 10/18(日) WE LOVE 白子川の会
- *2020白子川源流ネットまつり(仮称)★
- 11/15(日) WE LOVE 白子川の会
- 22(日) 定例活動 ◆
- 12/20(日) WE LOVE 白子川の会
- 27(日) 定例活動 ◆
- 1/17(日) WE LOVE 白子川の会
- 24(日) 定例活動 ◆

発行 白子川源流・水辺の会
<https://shirakogawa.tokyo/>
 編集 小川 郁/喜多 浩子/高宮 信三郎/永井 薫/日高 美南子
 題字 宮本 沙海
 発行部数 1,200部
 共同代表 岡崎一成/菅沢 博
 事務局 練馬区南大泉1-10-5
 03-3923-8430 菅沢 博



※この会報は年3回発行しています。

シリーズ 水辺の鳥たち

◆カワセミ



カワセミは、「その美しい色彩で野鳥の中でもいちばん人気がある鳥。白子川でも見ることができます。お薦めは朝か夕方、エメラルドブルーの姿を見つめられると感動します。また見かけによらずハンターで、魚とりの名人です。写真は今年6月に井頭橋で撮ったもの。この頃は川辺で眠った4羽の子カワセミが並んで魚を探す姿も見られました。(写真と説明 三浦直雄)

2020年9月 第60号
「白子川源流・水辺の会」会報紙

白子川源流・水辺の会

当会は2001年6月3日に設立された。以来、**20年の歩み(1)** 助成金は、河川環境管理財団5年間、全労済1年間、練馬まちづくりセンター4年間▼区との共同河川清掃は2001年に実現。参加した“こんちゃん”は「区の作業員たちの眼には親しみの色がかもっていた」と感じた▼管理倉庫設置は2001年9月に練馬区より許可を得た▼白子川護岸整備計画には2002～2005年にかけて積極的に参加し大きな成果をあげた▼簡単な竹炭づくりを神奈川県青少年施設で学び実現した▼販売用白子川グッズは、竹炭、白子川絵ハガキ(元会員萩原和雄氏の水彩画)、焼印プレート2種、わら筆(TA会員の発案)が揃った。

川への想いが高まった2003年、熱い議論の末に「みんなの白子川」というフレーズに辿り着いた。白子川フアンの印として、また川を知ってもらううとして焼印プレートがいよいよTO会員が提案し、探しあてた地元の金属工場の岡島延峰さんから快諾を得た。間もなく、美しく彫金された焼印『みんなの白子川』が完成し、私たちがせっせと焼いた。販売や配布を通して、源流界隈の多くのお宅に飾られ話題となった。この間の活動を列挙する。

▼設立の秋には源流まつりを開催し大盛會▼設立前から水質調査を毎月の定例活動とした▼大泉南小の白子川学習支援は設立の年から開始▼井頭池のオオフサモ(外来種)の刈り取り作戦を何度も実施し“制御”(菅沢 博)

(菅沢 博)



久慈川の支流で



写真はいずれも本流の久慈川。上の地図でいえば、「あらが川」は右上の役場の下を東に流れている支流(田川)のさらに支流である。

私のふるさは福島県最南端(つまり東北最南端)の矢祭町、人口5700人である。阿武隈高地と八溝(やまご)山地に囲まれた狭い盆地で、太平洋に注ぐ久慈川の氾濫がつくった地形だ。

生まれ育った所は、その支流のさらに支流の山奥である。我が家の下を流れるその川の水がどこから来るのか疑問に思ったことはない。川はいつもそこにあったから。田植えの季節には、大人たちが水争いにならぬよう話し合っ水に分け合っていた。ふだんは、農作業で使った道具や野菜を洗い、野菜を洗い、どろんこになった体も洗った。沢ガニや砂もぐり(小さな川魚)を探し、オニヤンマ捕りに夢中になって川に落ち、ケンカになったりした。

夏休みの楽しみは、大人たちが川の広いところを堰き止めて作ってくれる川プール。水が温まった午後にみんなで泳ぎに行き、入道雲が山に湧き上がる頃に慌ててあがり、我先に帰った。いま、その川は狭い川となって、水がちよろちよろと流れている。

田も水稲作から陸稲作中心になり、田植えは機械化され、川も農業用水としてはあまり使われなくなった。ホタルも見ないという。9年前の東京電力福島原発事故では、本流の久慈川でのアユ漁業が中止になり、3年後に解禁されたが、なかなか元には戻らないという。森が川を作り、土を作る。川がその土を運んで台地を作り、そこに私たちが住んでいる。

いま矢祭町では、有志の人たちが里山づくりに励んでいる。

(片野 令子)

白子川周辺の生きものたち② ハクセキレイ

鳥の巣立ち



(カットも筆者)

最近、街中でもよく見かけるハクセキレイ。尾を下上に振りながらチョコチョコ歩いては立ち止まる姿が可愛い鳥です。先日、ハクセキレイの親のほほえましい場面に遭遇しました。巣立ちしたばかりの子が「ア、ア」と口をあげて親について歩いています。体の大きさは親とほぼ同じくらい。親と同じように飛べるし歩くこともできるのに、餌を自分で取るだけができないので

す！親は餌を見つけては子の口にポンポン入れてやり、親が移動すると子どもあわててついて行って「ア、ア」とおねだり。親は当たり前のように餌を口にに入れてやっています。巣立ち直後のほんの何日か餌の出来事だったのかもしれないですが……。

水辺は、多くの鳥たちの命の源です。けなげにたくましく命を繋いでいる鳥たちにエールを送りたい。(渋谷英子)

下水吐け口の移設を! 行政への働きかけについて

白子川源流部の区立大泉井頭公園には、親水公園と謳いながら公園内に下水吐け口がある。前号でも記述するように、合流式下水道のため大雨が降ると生活排水が流れ込みトイレトベーパーの花が咲くという異常な事態が四半世紀に亘り続いている。水辺の会では、川遊び後の手洗いを徹底することはもちろんのこと大腸菌の検出測定を試行したり、東京都下水道局等各行政機関に対して下水吐け口の移設について継続してお願いをしてきたところである。自治体の多くにおいて緊急事態

宣言解除が為された5月中旬、「東京都は、家庭のトイレなどから出る下水中の新型コロナウイルスの濃度を測定することにより地域毎の感染状況や拡大の兆候をつかむことができる可能性がある」として、都内15か所の処理施設で下水の採取を始めた」という注視すべき報道が飛び込んできた。米国や欧州でも既に調査や研究が始まっているという。なお、コロナと下水の関係については、WHOが「感染者の糞便から感染するリスクは低く、下水道を介して感染したという見解はない」との見

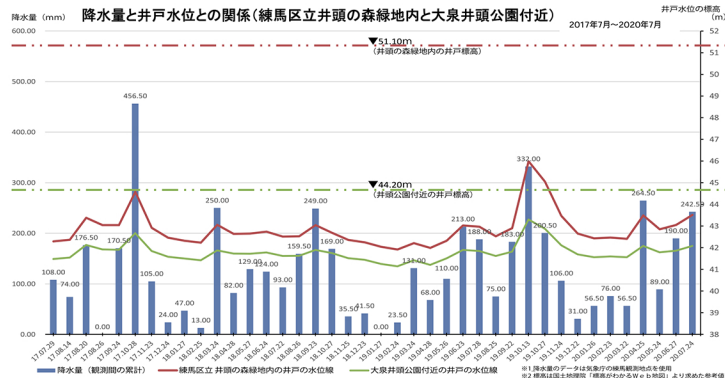
解を公表している。川の流れには自浄力がはたらくとはいえ、新型コロナウイルスについては解明されていない点が多い。水辺の会としては、コロナ禍での、特に子供たちの総合学習等の川体験について、関係には十分な説明を行い判断を委ねたうえで慎重に取り組んでいきたいと考えている。なお、水辺の会では、このたびの新型コロナウイルス感染症の拡大状況をを受け、7月21日、改めて下水吐け口の公園外への移設について、練馬区へ申し入れを行った。(井永薫)

定例活動報告

日時	調査項目	天気	気温(°C)	水温(°C)	水深(cm)	pH	COD(mg/L)	源流部流速(km/h)	源流部流量(L/秒)	主な活動特記事項	参加人数(うち委員名)	収集ゴミ(袋)
2020年5月24日 <13:30~>	源流部	晴	26	18.9	9	7.3	2	0.36	120	—	6	6
	井頭~火の橋中間			19	27	7.2	2					
2020年6月28日 <13:40~>	源流部	曇り	21	18.2	14	欠	2	0.41	129.5	pHセンサーの内蔵液が抜けてデータが不安定だったため欠測発生した	7	29
	井頭~火の橋中間			18.5	26	欠	2					

・CODとは、水の汚れを示す指標で、数値が大きいほど汚れている。当会では、低濃度簡易測定キットで指標を判定している。2は最低値できれいな水、4~6は少し汚れている。8以上は汚れている。
 ・pHは、酸性とアルカリ性を示す指標で、pHが中性より大きいとアルカリ性、小さいと酸性。
 ・表の(―)は、水がなくて測定不能、(欠)は測定機器の不具合等で欠測の意。
 ・4月及び7月は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて定例活動を中止した。

◆水辺の会では、定例活動において水質調査とともに放射線測定も行っており、その結果<2ヶ所ずつ、単位はμSv/h>についても以下報告します。
 5月・・・0.06(源流部)/0.07(井頭橋) 6月・・・0.12(源流部)/0.10(井頭橋)



※1 調査のデータは各分野の観測地点を参照
※2 調査は自治体提供(「福島県水質年報」を参照)より転載した参考値